

令和4年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業

「母子保健における児童虐待予防等のためのリスクアセスメントの実証に関する調査研究」

国立成育医療研究センター

1. 調査事業目的

令和3年度の子ども・子育て支援推進調査研究事業では、全国の母子保健活動で使用されているアセスメント項目を広く収集し、全国調査で定量的な評価を加え、子育て上の困難や児童虐待の発生を含む社会的なリスクを把握するためのアセスメント項目の構成案が作成された。令和4年度事業の目的は、妊娠届出時、母子健康手帳交付時、乳児家庭全戸訪問、乳幼児健診等の母子保健活動において、「児童福祉と共有が必要な」妊産婦・乳幼児およびその家庭を組織として把握し、母子保健部局内や関係機関との情報共有時に使用できる標準化されたリスクアセスメントシートに改良を加え、精度評価を実施し、運用マニュアルの作成を行うこととした。

2. 事業実施概要

① 母子保健事業におけるリスクアセスメントシートの実用化作業(半構造化面接)

5自治体10名の母子保健関係者に対して半構造化面接を実施し、リスクアセスメントシートを母子保健活動で使用するために必要と思われる用語・具体例の追加や変更、使用方法について意見を聴取し、リスクアセスメントシートの改訂作業を行った。

② 母子保健事業におけるリスクアセスメントシートの精度評価に係る調査(ダミーケース調査)

母子保健関係者へのダミーケースを用いた紙面/オンライン調査を実施し、リスクアセスメントシートが異なる職種、経験年数であっても、ある程度一致した評価ができること(評価者間信頼性)の検証を行った。また、児童福祉と共有すべき支援の必要性を把握する暫定的なカットオフ値、感度・特異度を補足的に算出した。

③ 実務導入に向けた運用マニュアル作成(フォーカスグループインタビュー)

半構造化面接、検討委員会での討議をもとに、運用マニュアル構成案を作成した。その後、フォーカスグループインタビューで、運用マニュアルの内容の適切性、各項目の説明について検討を行い、運用マニュアルの改良を行った。

3. 主な成果

本事業により、母子保健活動において、支援の必要な妊産婦・子ども・家庭を適切に把握し児童福祉と共有につなげるためのリスクアセスメントシート改訂版を作成した。また、リスクアセスメントの各項目の評価者間信頼性を明らかにし、評価者による差異が生じる項目については、用語の改良や説明を追加した。また、リスクアセスメントシートの該当項目数に関する暫定的なカットオフ値を報告し、母子保健活動で使用するための運用マニュアルを作成した。母子保健従事者がリスクアセスメントシートや運用マニュアルを通じて、母子保健における支援の必要性に関する共通認識を持つことにより、リスクアセスメントに関する知識の均てん化、情報連携の促進につながることが期待される。